

ラウル・カストロの組織論

新藤通弘

最近、組織における意見の相違と満場一致について、考えてみましたら、キューバの革命の指導者ラウル・カストロ前議長（フィデル・カストロの弟で、2008～2018年国家評議会議長、2011～2021年共産党第一書記）の言葉を思い出しました。

ラウルは、1931年生まれで、今年94歳になります。キューバ革命の指揮者、兄のフィデル・カストロのキューバ革命オーケストラの、いわばコンサート・マスターとして1959年より革命軍の国防相、革命軍将軍として2008年まで革命を支えました。1965年からキューバ共産党の第二書記となり、2008年にはフィデルの健康悪化で、国家評議会・閣僚評議会議長を引き継ぎました。そして、2011年には、共産党第一書記を引き継ぎました。2011年の第6回党大会で、国家評議会議長職、党の要職の任期を5年、再選1期可能と提案しました。そして、2018年に国家評議会議長をディアス＝カネルに、2021年に党の第一書記をディアス＝カネルに譲りました。

ラウルは、なかなかの組織人で、ラウルは、組織内における反対意見を重視し、満場一致は見せかけのものであり、有害であるとさえ述べています。アメリカと厳しく対峙する国際関係の中でのこうした態度は、賞賛に値します。

以下ラウルの言葉です。

これまで7月26日の演説の反省過程から生まれた提案で行われたように、多数派の意見に同意するか否かにかかわらず、誰もが注意深く耳を傾ける必要がある。私たちは、この問題や他のいかなる問題についても、しばしば結局は架空のものであることが分かってしまう、満場一致を望んでいるわけではない。

2008年7月26日 7.26 記念演説

以前に述べたように、意見の違いを恐れることはない。意見の違いは、みせかけや日和見主義に基づく偽りの満場一致よりも常に望ましい」。

2010年国会閉会演説

今日の私たちの団結はかつてないほど強固なものであり、それは偽りの満場一致や日和見主義的な見せかけの結果ではない。団結は正直な意見の違いを排除するものではない。

2010年8月1日 国会閉会演説

率直な議論を奨励し、意見の相違を問題視するのではなく、意見の違いは、最良の解決策を生み出す源とみなす。絶対的な満場一致は一般に架空のものであり、したがって有害である。矛盾は、私たちの場合のように敵対的でない場合、矛盾は発展の原動力である。

2010年4月4日 キューバ共産主義青年同盟閉会演説

指導的立場にある者は、耳を傾けるすべを知り、他者が完全に自由に意見を述べられるような雰囲気をつくり出さねばならない。それは、すべての指導者の仕事の進め方に、決定的に組み込まれるべきものである。

2007年12月28日国会閉会演説

また、ラウルは、実践的な人でもあり、次の言葉を皮肉たっぷりに残しています。

社会主義においては、経済計画における資源の配分が、利用可能な収入に厳密に適合するものである。2+2が5になることを望むことはできない。2+2は4ある。むしろ社会主義においては、時に2+2が3になることさえあるのだ。」

2008年7月11日国会閉会演説

アメリカによるベトナム侵略戦争の後、英雄的で不滅のベトナムの人々は、我々にコーヒーの栽培方法を教えてほしいと頼んできた。そこで、我々は、ベトナムに行って彼らに教えた。我々の経験を伝えたのである。今日、ベトナムは世界第2位のコーヒー輸出国である。そこで、ベトナムの高官がキューバの同僚に言った。「あなた方は、以前、コーヒーの育て方を教えてくれたのに、今や私たちからコーヒーを買うなんてどういうことだ？」そのキューバ人がどう答えたのか、私は知らないが、間違いなく、「封鎖のせいだ」と言ったに違いない。

2010年12月18日、国会閉会演説

勝利主義で良い結果だけを報道してはならないし、政府幹部も現実を正直に批判と自己批判に基づいて報告をしなければならない。

2007年12月8日国会での演説。

我々は、どうしてきたのだろうか。どうして、これまで、革命の最高指導者（フィデル・カストロ）の命令や指示を達成できなかったのでしょうか。演説に拍手し、革命万歳と叫び、その後、事態は変わらないのだ。

2010年12月18日国会演説

そこに土地があり、ここにキューバ国民がいるのだ。我々が働くかどうか、生産するかどうか、我々の言葉を達成するかどうかの問題なのだ。祖国が死か、帝国主義打倒と叫ぶ問題ではないのだ。封鎖は我々を苦しめているが、そこに土地があり、我々の汗を待っているのだ。

2007年7月26日記念演説

（以上）

